

第14回 指導医のための教育ワークショップ

と き 平成29年10月7日(土)・8日(日)

ところ 山口県医師会

[印象記: 中嶋クリニック 中嶋 薫]

10月7～8日の日程で第14回「指導医のための教育ワークショップ」が開催されました。私自身、前期研修医の地域医療研修の指導医として診療所での研修医の指導に携わっていますが、これまでこのワークショップを受講していなかったため、医師会の先生に勧められ参加しました。

当初、座学を主体とした一律的な内容の研修とっていました。しかし、いざワークショップが始まると想像していたものとは懸け離れた内容でした。

初日の9時より開会式がありました。内容については非常に不安でしたが、まずアイスブレイクとして他己紹介から入っていきました。これは2分間で相手の先生のプロフィールを聞いて内容を把握して、その後30秒でその先生の紹介をするという初めての体験でした。次々に紹介が進み、お互いの心が和み、また新たな緊張感をもってワークショップへ入れました。

チーフタスクフォースの林先生からこのワークショップの意味合いをプレゼンしていただき本題が開始です。まず「社会が求める医師の基本的臨床能力とは」について2グループに分かれて話し合い、KJ法を用いて意見を出し合いました。その意見を数種類にグループ分けし、それらの関

連性からグループの意見として医療知識・診断力などの「医師力」を安心感・コミュニケーション能力などの「人間力」が取り巻く同心円状にまとめあげました。

途中で臨床研修制度の最近の動向について講演があり、改めて私の年代の卒後研修とまったく異なっていることに気づかされました。

次に、研修目標を掲げてそれに対するプログラム立案をグループ内で討論しました。その中で、「チーム医療のできる医師を目指して」を立案し、別のグループでは「患者背景を加味した治療選択」を立案され、討論を行いました。

続いて、研修方略という聞きなれない言葉が出てきました。このプログラムを実現させるための手段という意味だそうです。医療の知識、態度、技能に分けて一般目標であるGIOおよび行動目標であるSBOsに対してプログラムの立案を行いました。その目標達成のための資源が研修方略で、その検討も行いました。

途中で研修指導医のあり方というロールプレイがあり、想定された患者の背景を仮定し、それに対するシナリオを作成しグループごとに発表しました。その演技が素晴らしく大いに盛り上がりました。19時頃にやっと第1日目の研修が終わりました。ホテルに移動して情報交換会(懇親会)が開催されました。いろいろな意見が交わされ有意義な会となりました。その後、2次会へと夜の街になだれ込まれた方もあったようです。私は疲れてしまい、そのままホテルで眠りにつきました。

翌日8時30分より2日目が始まり、昨日の振り返りから開始です。前日に立てた研修の評価方法を考えグループ内でいろいろ内容を検討し、また新たな方略も出され何度もブラッシュアップしていき、一定の結論が出てそれをまたグループご



とに発表していきました。

次に、メディカルサポート・コーチングでのビデオが流されました。その中で指導医が研修医にやる気をおこさせる重要性について再認識させられました。また、いろいろなことに対してフィードバックが必要だと感じました。さらに、心に残った研修での出来事・SEA体験では、それぞれの体験を皆さんにプレゼンすることで振り返りや疑似体験ができました。上手にフィードバックすることでシミュレーションになるための情報の共有も大切だと感じました。

その後、医学教育改革の流れについて講義がありました。さらに、臨床研修の充実に向けて検討内容を発表しました。最終的に皆さんがそれぞれの2日間の思いを振り返り、最後に河村県医師会長よりワークショップの修了証書をいただきました。非常に疲れましたが本当に充実した2日間でした。すがすがしい達成感を実感し、新たな考え方を教えていただき、発想の転換のヒントを受け取れたと思いました。

このプログラムに参加して一番心に残ったことは、研修医を一人の社会人として接しなければならないというコーチングのテクニックでした。コアスキルは「聴くこと」であり、ゼロポジションで話をしっかり受けとめること、先入観を排除すること、自分の思考を極力抑えること、相手の話の途中で話し出さない、沈黙を利用すること、次に「ペーシング」として、視線、声の調子や大きさなどを合わせることで安心感を高め、そして「顔



きと相づち」により「もっと聞かせて」というメッセージを送り、またオープン型質問を有効に使用し、未来型、肯定型の質問を活用し、有効に伝えるということでした。

ワークショップを通して、これまでの研修医への対応に大きなギャップを感じました。また、自己流で行っていたことに対して非常に恥ずかしい思いをしました。医師は、医療面接、検査、診断、治療は習得していますが、それを研修医に教え、指導するスキルの講義は受けておりません。このような意味を含めて、このワークショップに参加されることをお勧めいたします。自分自身が今まで使っていなかった脳を活性化し、その方法、考え方、解決方法、それに対する方略、結果の評価、研修医に対するいろいろな手段を教えていただき、盛りだくさんの内容を経験できたことに感謝しております。タスクフォースの先生方およびスタッフの方々、また、ワークショップに参加された先生方、大変お世話になりました。

